



在京古高同窓会  
会報

第18号

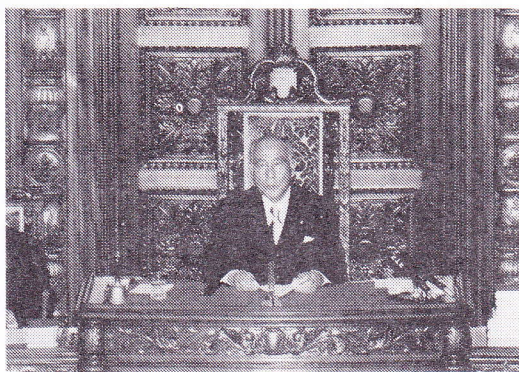
〒133 東京都渋谷区  
道玄坂1-15-3  
プリメーラ道玄坂110号  
信陵会館内  
在京古高同窓会事務局  
☎(03) 3462-1225  
印刷：(株) ケーヨー

謹んで新春の

御祝詞を申し上げます

在京古高同窓会会長

伊藤 宗一郎



しかし早くも11月19日の臨時の役員  
会では、事務局長代行に佐藤廣君(S29  
年卒)を選任しており、いささかの空白  
もなく片平路線を継続する体制を整え  
得たことは、改めて古高健児のたくま  
しさを認識させるものであり、「大崎原  
頭」で培われた強靱な精神を心強く思  
う次第であります。

そして故片平君がその発足に尽くし、  
早くも4回目を迎える古川市内四校の  
合同新年会も予定通り1月19日には開  
催されるとのこと、喜ばしい限りであ  
ります。

私も在職33年に及ぶ衆議院議員の総  
決算としての議長職に全力を傾注し、  
厳正中立の視点から国政に奉仕する決  
意であります。年頭にあたり、同窓生各  
位の尚一層のご発展を祈念いたします。

在京同窓生の皆様にはめでたく新年  
を迎えられたこと存じます。今年  
は母校が創立百周年を迎える節目の年  
であり、21世紀に向けて更なる発展を期  
す意義ある一年であります。

それにしても昨年11月9日は、我々  
在京古高同窓生にとってまさに痛恨の  
日でありました。事務局長の片平司朗  
君の急逝で、その2日前11月7日、臨時  
国会における衆議院議長就任直後の、  
思ってもみない衝撃の出来事でありま  
した。

年会費未納の皆様へ

この会報とともに振替用紙が入って  
いる方は、年会費が未納となっております。  
ます。より活発な同窓会運営のために  
納入下さるようお願いいたします。なお、  
行き違いで納入の際はご容赦下さい。

◎事務局が移転

(1) 在京古高同窓会事務局が片平局長の急逝に伴い三峯工業(株)内から  
下記のところに移転しました。なお現行会則の規定を踏まえて発足した、  
新しい委員会制度及び業務内容は次のとおりです。  
新事務局長は佐藤廣さん(29年卒)をお願いしました。

(2) 事務局の所在地について  
住 所：〒150 東京都渋谷区道玄坂1-15-3  
プリメーラ道玄坂110 信陵会館内  
電 話： 03-3462-1225  
FAX： 03-5489-1358

(3) 新委員会  
(イ) 組織委員会 委員長 渡辺 吉郎 (30年卒)  
(ロ) 事業委員会 委員長 佐藤 公哉 (32々々)  
(ハ) 広報委員会 委員長 尾崎 章 (31々々)  
(ニ) 財務委員会 委員長 穴戸 志智 (34々々)

(4) 各委員会の業務について  
(イ) 組織委員会の業務  
① 組織強化に関する事項  
② 年次会の結成と連絡に関する事項  
③ 名簿の作成に関する事項  
(ロ) 事業委員会の業務  
① 総会及び各種懇親会の開催に関する事項  
② 大崎地区4校合同新年会の開催・連絡に関する事項  
③ その他事業(企画・実施)に関する事項  
(ハ) 広報委員会の業務  
① 会報「堂雪」の発行に関する事項  
② その他会の広報およびPRに関する事項  
(ニ) 財務委員会の業務  
① 収支会計に関する事項  
② 決算報告に関する事項  
③ その他会の財務に関する事項

第四回市内四校合同新年会の開催日決まる

一月十九日(日) 高田馬場平安閣

平成九年の古川市内四校の合同新年  
会は、一月十九日(日)午後二時から高  
田馬場「千代田平安閣」で開催されるこ  
とに決定しました。

今回で四回目になるこの会は、期待  
通りの広がりを見せ、地元大崎からの  
関心も高く、大イベントとして定着し  
つつあります。

今年の記念講演は、大崎タイムス社  
編集局長の伊藤卓二さんをお願いして  
います。演題は「郷土古川の22世紀を語  
る」となっており、21世紀を目前にして  
尚その先を展望してみようという意欲  
あふれるお話が期待されます。  
また、今回も大崎地方のミニ物産展  
を開催する予定にしております。

▽日時 平成九年一月十九日(日)  
▽場所 高田馬場「千代田平安閣」

新宿区高田馬場二、十六、十  
電話 三三〇七、五一六一

JR山手線、地下鉄東西線の高田  
馬場駅下車、徒歩二分

▽会場 八、〇〇〇円

▽講演 「郷土古川の22世紀を語る」  
講師伊藤卓二(現大崎タイムス社  
編集局長)

※プロフィール

昭和20年8月12日生まれ松山町下伊  
場野出身。昭和39年古川高校卒業後、大  
崎タイムス社入社。著書は「大貫村物  
語」「土魂、日本一の百姓只野直助伝」  
(田尻町長賞)「百折不撓、早坂順一郎  
物語」(大崎タイムス社長賞)「豊饒平野  
戦国時代の大崎一族」(葉匠繁盛期)古川  
製菓同業組合70年史「三本木亜炭鉱害  
史」(三本木町長賞)「喜寿を迎えて、菅

創立百周年記念事業に協賛を

母校が百才になったという。我々が若い一時期、母校で育まれ、  
その結果現在の今があると思います。また、丁度百年目の節目に遭  
遇したという巡り合わせにも感謝をしたいと存じます。

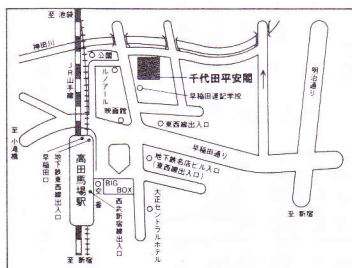
我々も、後輩たちが大いに活躍できる文化活動センターの建設の  
為に拠金をしようではありませんか。既に、百周年記念事業協賛会  
から各個人宛に趣意書が送付されていると存じますが、在京古高同  
窓会としても拠金の目標達成に協力したいと考えています。従いま  
して、皆さんの応分のご協力とご支援を重ねて切にお願いするもの  
であります。

(事務局長)

原都男人生アルバム「天開の驥足千葉  
豊治物語」大志よ永遠に「只野直三郎と  
その時代」新豊饒平野・戦国時代の大崎  
家家臣団「上・下」など多数。

平成7年度東北学おこしで「大崎疾  
風伝」の原作脚本を担当し、日光江戸村  
特別講演を中新田町パッパホールで上  
演し、3、500人の観客を動員した。  
また、平成8年10月17日に日本地方新  
聞協会JLNAブロンズ賞奨励賞を受  
賞。

現在、大崎タイムス社取締役編集局  
長。市内境野宮在住、4人家族。



# 片平司朗事務局長の逝去を悼む



いま在京古高同窓会事務所（京成小岩・三峯工業本社内）には、あの精力的だった名事務局長片平司朗さんの姿は見られません。

平成8年11月7日同社社長室で脳内出血により倒れ、救急車で入院したものの、意識を回復せぬまま11月9日正午すぎ逝去されました。59才の若さでした。

お通夜は11月11日、葬儀は12日、菊花に飾られて浅草・東京本願寺で盛大に行われ、在京古高同窓会関係者も、伊藤宗一郎衆議院議長を始めとして二百名に達しました。

平成2年6月以来6年以上に亘る事務局長として積極的な活動振りでしたが、ご本人が就任時に約束した通り「螢雪」（第四号平成2年8月2日号）「ユニーク」な路線を残してもらえたと思えます。中でも古川市内四高校による合同新年会は平成9年1月19日開催で早くも四回目を迎えようとしております。

また同氏は在京古高同窓会の諸費用のうち総会資料、会議資料、案内資料のコピー代の殆どを三峯工業（株）に負担させており、経済的にも多大の貢献を

していただいたものです。昨年7月総会時決算報告記載四百六十拾萬円強の次期繰越金がそれを如実に物語っております。同窓会としては誠に感謝に堪えません。

## 弔 辞

宮城県古川高等学校在京同窓会事務局長片平司朗さんの御霊前につつしんでお別れの言葉を捧げさせていただきます。

貴方は私達古高同窓会の事務局長として、かえがえのない存在でありました。平成二年初代事務局長青柳勲氏から引き継いで以降の貴方は、文字通り徹底して古高同窓会事業に心血を注ぎ、会の発展に全力を注がれました。

貴方は、三峯工業という業界きって優良企業の長として社会的責任のある地位にあり乍ら、なお地方高校の同窓会の運営にもなみなみならぬ御尽力をいただき、今日の発展をみることでございましたことは、貴方の御努力に負うところが誠に大きいと云えるのであります。

貴方は宮城県北の中心地であり古川市に生をうけ、古川高等学校に学びました。古川市は東北のなかでも豊かな実りとも豊かな自然の環境に恵まれた私達共通の故郷であります。

貴方は昭和三十一年卒業と同時に東京の大学に進まれ、東京に生活の基盤を置かれるようになりました。しかし、その中にあっても故郷古川―大崎のことはいつも念頭をはなれることなく絶えず思い続けておられました。その集大成が在京古高同窓会事務局長として

古川―大崎魂をよみがえさせることになったのです。

今日、在京同窓会は二十人余の大集団であります。年次の総会の出席者も年を追うごとに増えております。また、貴方が企画し心血を注いだ古川高等学校・古川女子高等学校・古川工業高等学校・古川商業高等学校の四校合同の同窓会も、大盛会のなかに四回目を迎えようとしております。

また、内容豊かで水準が高く好評をいただいている会報も貴方の指導と御努力により会員二千八名全員に送付するという他ではまねのできないことまでやっております。これは貴方のアイデアにもよりますが、それを育てたふるさと古川ぬきでは語れません。

集団を束ねるということは大変なことですが、貴方は在京の大崎地方を見事に束ねました。誰もできないことを貴方はさりげなくやってくれました。しかし、これからというとき、突然誰にも断りなく私達の前からいなくなりました。なんと勝手な人よ、という気がいたしてなりません。しかし今にして思えば、私達みんなが貴方ならなんでもやってくれるという頼りがいのある人と甘えていたのではないかと深く反省いたしております。

貴方が育てた後輩は、貴方を評して、”人間愛に徹した片平さん”と云っております。

貴方も人間です。どうして自分も愛さなかつたのかと残念な気持ちです。長寿社会と云いながら、どうしてこんな不公平があるのかと疑問に思います。また話が変わりますが、私の選挙戦

のさなか多賀城まで来て励ましてくれました。本当に涙が出ました。その時私は、はっきりと古川のため大崎のため私はあるのだという気がいたしました。

今、衆議院議長という名誉ある地位にありますが、もちろん国のためであります。しかし故郷あつての今日と深く感謝しながら片平事務局長とお別れの席に断腸の思いがいたします。

本来ならば自らこの席でお別れの言葉を述べるのですが、あいにく本日は特別国会にあたり、やむを得ず片平さんの柔道の先輩でもある春田副会長に代わってお願いする次第であります。片平さん、安らかに眠りください。

平成八年十一月十二日  
古川高等学校在京同窓会  
会長 衆議院議長 伊藤宗一郎

## 京成小岩通い

千坂 孝夫

平日、津田沼―原宿間を通っている身にとって、休日はお茶の水より西へは行きたくない。

小岩は独身最後と新婚五ヶ月とを合わせ、五年間も住んだ、寅さんの街に近く、又、山の古書店もあり、行き易い場所にあった。

同窓会事務所は三峯工業の社長室であった。外階段のあるマンションの二階。但し、三峯工業の看板はない。京成小岩より徒歩二分のこの場所に二分で着いた初訪問者はいなかったと思う。

片平事務局長の強力な右腕であった島山氏によると、どうも私が一番多く訪れたらしい。会報の編集作業の方では昼飯をごちそうに行くようなものであったが、発送作業では確かに強力メンバーであった。

事務局長から職場に電話が入る。「明日来てくれんかなー」の声を聞く前、つ

まり、「カタヒラです」の声に「ワカリマシタ」と答えてしまうのである。「フフ」という声は電話の向こう側にはいつもついていた。

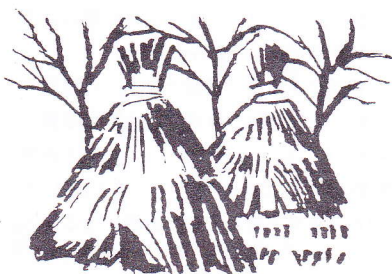
東北の世に、「ケ」と「ク」という世界最短の会話があるが、その延長線上である。事務局長に言われると、確たる予定がない限り断れない。睨まれたネコではない。手伝おう！（変な表現でゴメンナサイ）という気になるのである。

小岩の事務所、たいがい土曜である。遅く来る社長（三峯工業のこと故）は、「おっ、来てくれたか」そして、例のフフが入る。ほんとうにうれしそうであった。この「魔力」と同窓会への熱意に「コロッ」とした先輩、後輩は多く、それが今ある同窓会の姿なのである。

歌手なり、作家なりの大きさは「デビュー作」の印象で決まるとすれば、都道府県会館での同窓会、伊達な国づくりの「本間知事の話と総会。あれは片平事務局長のデビュー大傑作であったと思う。俺たちの同窓会」といった熱気あふれるものであった。

話が、小岩からそれたので終わりにするが、あの会館も今はもうない。再生中である。

わが同窓会については、小生は「蝶」をイメージしている。謎解きはいつかに。 合 掌



古高同窓会会長

野村喜太郎

十一月七日午前十時頃東京の片平司朗氏より電話あり。「新年の会報に同窓会長の寄稿をお願い致し度い」とのこと。快く引受けその折伊藤藤宗一郎先生の衆議院議長就任が略々確定的だったので二人で喜びあつて電話を切りまし

た。日曜日十日に古高同窓会事務局局長鹿野次夫氏より片平氏の訃報報告に驚かされました。私と電話でお話した数十分後に倒られた由、全く信じられませんでした。

片平氏は平成二年から在京古高同窓会事務局局長として会長、役員を補佐し、東京と郷土大崎、古川のパイプ役を務め、古高同窓会総会には勿論学校行事にもご出席されて居られました。又古川市内四高校の在京同窓会の合同新年会を実現し親睦のまとめ役として尽力されたご功績に深く敬意を表します。特に母校創立百周年を控えてご心配下され種々ご助言をいただきこれからもご指導をいただかねばと思つて居りました矢先の突然の訃報に残念であり謹んで哀悼の意を表します。

百周年記念事業について

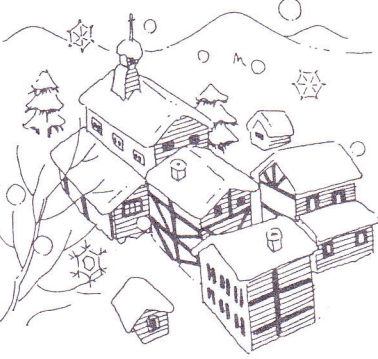
記念式の日時は平成九年十一月六日木曜日。県内で百周年を迎える高校が三校とあつて知事の出席予定の調整で十一月六日と決定して居ります。

事業の大きな柱の一つは記念文化ホールの建設と決定致しました。二転三転致しましたが同窓会、百周年記念事業協賛会で県にお願いした民有地の買取も済み、格技・卓球等に使用する体育施設、二階建総面積千平方メートルの建設

も始まつて居り新年度始めには完成予定です。音楽、演劇の部活に必要な部屋場所がなくて生徒・学校側も苦勞している実態ですので県の了解を得て、記念文化ホールの建設、二階建総面積九百平方メートルの建設に決定し募金活動に入つた次第です。完成は式典当日まで難しいと思われませんが募金の集まり次第ですのでご協力の程お願いいたします。

次に同窓生の要望である講堂の保存の件であります。現在剣道場として使用致して居りますが老朽化がひどく壁はくずれ、天井、床が傷み保存には難しく、亦敷地の関係で取りこわしし、写真等でのイメージ保存ということに決定致して居ります。

古高百年史の編纂に就いては、学校に保存されてる資料、同窓生からいただいた資料をもとに、教職員の方々と編纂委員会をつつてまとめられ同窓生の中新田町の大宮印刷所と相談しながら仕事を進めて居ります。



大先輩 鈴木文治氏 顕彰碑について

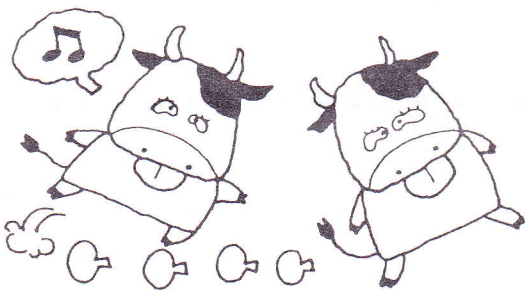
高校の教科書に古高出身で唯一人名前の出てくる母校第一回卒業生、労働運動の先駆者鈴木文治氏の顕彰碑が現在古川市の諏訪公園内にあります。鈴

木翁を慕う有志の方々が建立したもので現在古川市の管理下にあります。記念文化ホールが完成し、敷地の整備が或る程度出来た頃母校の敷地に移転する計画がありこれも百周年記念事業の一つです。以上古高百周年記念事業協賛会総会で決定している事業を述べましたが何せ同窓生のご寄付に頼つて居りますのでご理解ご協力の程切にお願

いします。時恰も第二次橋本内閣が誕生し第六十九代衆議院議長に伊藤藤宗一郎先生が就任、郷土の喜びのみならず母校同窓会の名誉であり、教職員、在校生にとつても何よりの刺激であり贈り物であります。難しい国会運営に手腕を発揮していただくものと信じて居ります。

昨今母校は私立高校との競合で、進学、スポーツの面で話題になります。校風質実剛健の伝統を引継ぎ有意義な高校生活を送れる様同窓会として切に願つて居ります。

新年を迎えるに当たり在京同窓会にとりまして、私にとりまして悲喜慶用交ら複雑な気持ちでございますが会員皆様のご発展をお祈り致します。



「ストレスフリー住宅」モデル構想(第1弾)発表!

グランドステージ祐天寺

ストレスを生じさせない人間優先の住まい 「ストレスフリー住宅」。

Century 21 AMENITY STAGE CREATIVE 古高47年卒

ハウジングセンター 代表取締役 小嶋 進

1995年度日本総合第1位 世界13ヶ国6000店中世界第2位

東京都知事免許第41620号 社団法人住宅産業開発協会会員

〒154 東京都世田谷区三宿1-13-4 03(5430)0021

SEM

あなたと快適をむすびます。

水をつなぐ  
空気をつなぐ  
電気をつなぐ  
情報をつなぐ

住友電設株式会社

副会長 三浦澄能(昭和24年卒)

# 謹んで新年の

# お慶びを申し上げます

因らずも衆議院議長に就任いたしました。議会政治の権威高揚のため最善を尽くす決意であります。何卒格別の御鞭撻を賜りたく。

昭16 伊藤 宗一郎

平成七年の杉並区長選挙では苦杯を喫しましたが、捲土重来再挑戦をめぐして充電中です。その節は御支援誠に有難うございました。

昭36 千葉 昇

校章は螢雪。市木は公孫樹、花は菖蒲。ふるさとから(衆)議長・大蔵大臣誕生。身健やかに、世の為、人の為に、尽くされますようにと祝電。

昭33 田口 正一

会長が衆議院議長となり、新しい内閣も発足した。母校古高は百周年、建国大学は中国長春で同窓聯歡会を開く。今年も期待の年としたい。

昭17 高橋 淳夫

在京古高同窓会会長伊藤先生の衆議院議長就任を祝います。今年も母校創立百周年。錦上添花を添えることになりました。小生お陰様で元気でです。

昭7 泉沢 四郎

古川のふるさとツアーで吉野記念館、荒雄公園、化女沼を案内され、昔の様変わりを経年の重みを実感！皆様にもツアーをお勧めします。

昭34 村上 金吾

「男のブルース」をいつも唄っています。忘れられたような唄が好きです。手垢の付いたものを忘れたくありません。

昭27 佐藤 清勝

祝我母校古川高等学校之創立百周年 賀伊藤宗一郎先生之衆議院議長就任

昭34 宮野 貞司

大崎の秋の実りの重々し  
伊藤宗一郎会長の衆議院議長就任の祝句です。小生は九十才、相不変、労務管理を研究中です。

大15 師 勝夫

螢雪百年の歴史を思い感無量です。大崎耕土の冬景色それを囲む栗駒舟形の山々が一入なつかしいこの頃です。

昭8 及川 八郎

片平先輩を偲ぶ年になったことを残念に思う。母校の創立百周年記念には在京古高同窓会として〇〇百万円を寄付しようといつて貯金までしていた片平先輩だったが・・・

昭32 佐藤 公哉

百周年おめでとうでございます。現在野球部OB諸氏の名簿を作成中です。あいつは野球部だったと心あたりの方はお知らせ下さい。

昭37 中鉢 泰平

環境保全ボランティアが私のライフワーク。モンゴルのゴビ砂漠の植樹活動に参加した。片平同窓会事務局長の逝去を心から悼む。

昭18 渡辺 三男

新年おめでとうでございます。年頭にあたり皆様のご健勝とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

昭22 竹中 潤郎

文字通り身を粉にして在京同窓会のために活動された片平事務局長の突然の

死、誠に残念です。今後はみんなで協力して同窓会を盛り上げましょう。

昭34 六戸 志智

日本百名山も57座登頂済み。今年も信越の巻機、乗鞍、焼、御嶽、戸隠、空木に加え、はるかな赤石を予定。健脚のみがとりえ。

昭37 千坂 孝夫

定年後は仙台へ帰るつもりでしたが、が、当分戻れそうにないようです。片平事務局長の急逝で、後をやることになりました。よろしく。

昭29 佐藤 廣

昨年12月3日、在京古校三二会の例会には10名が集まりました。故片平司朗君の遺志を継いで、同窓会・同期会とも従来通りの活動を続けることが合意されました。何よりの供養になると心強く思った次第です。

昭31 尾崎 章

新年おめでとうでございます。昨年は片平先輩の突然の訃報に接し唯唯茫然とするばかりでした。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。苦を乗り越えて32年卒頑張ろう。

昭32 佐々木 勝也



祝 会長議長就任 冥福 故事務局長

代表取締役 金子 康

**積水工業株式会社**

東京都目黒区上目黒2-17-1

目黒3793-5711(代)~6 仙台 (022) 235-7009



明石海峡大橋 当社施工参加

世界の教育・福祉・保育などあらゆる分野を尋ね28年。実績を生かし、さらに研修と旅学を結び合わせ 貴社の個性を生かす旅づくりのお手伝いを。


株式会社 インターナショナル ヒューマン トラベル

代表取締役社長 中 鉢 泰 平 (昭和37年卒業・鳴子町出身)

〒160 東京都新宿区西新宿3-5-12 新宿第一ターカン1F (ワシントンホテル隣り)

TEL&FAX 03-3345-6035

技術と品質で21世紀に飛翔する

 株式会社 **宮地鐵工所**

代表取締役会長 遠山仁一 (S.25卒)

東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号

# 達教師の名物の校がわ

## 「古高の新一代名物」とタガトス先生

昭和58年卒 佐々木 達也 (フリーライター)

PART 4

きよき古高はどこへ行く」と勝手になげいたものである。

そこで、三年生だった昭和五七年度早々、自ら「古高の新一代名物」を選ぶことにした。一人は美術教師で担任のアマコ(中国地方の大名・尼子氏の末裔だろうか)、中新田高校から移ってきた一迫在住のツノダ、同じく石巻高校からきたミヨウガ(明日とかいてミヨウガと読む)である。

選定の基準は、風貌のおもしろさ、名前の奇抜さ、そして、生徒の人気度である。アマコ先生は当時確か三〇歳そこそこで、生徒たちは頭の薄さをバカにする一方で、気軽に話せる先生として慕ってました。ツノダ先生は中高でも女子生徒のアイドルになっていたらしく、「ツン、ツン、ツノダの・・・」というテーマ曲まで持っているスゴイ先生だった。現代

折角足のかかとをツンツンあげる「ツノダ・スタイル」がコミカルだった。覚えていた人は限られるが、ミヨウガ先生は黒縁のメガネが特徴で、ミスターオクレを細身にして、こざいにしたルックスが生徒達の目を引いた。英語の先生らしく「イニシヤーチブをとらな」といけな

いよ。イニシヤーチブを」とか言って、教室の掃除をする生徒達にハッパをかけた

「新一代名物」は私が勝手に選んだもので、広まることもなかったが、同じ学年の人たちであれば納得してもらえらる部

分もあったと思う。聞くところによれば、ミヨウガ先生は私たちの卒業後、別の学校に移り、選定期間もない「新一代名物」は脆くも瓦解した。

ほかに、心に残る先生はたくさんいる。その昔、「古川工業の鬼教師」と恐れられたものの、古高では「教師生活」十五年の「マチダ先生」と化していた

佐々木俊雄先生(その後、加美農で講師

生活を送ったと聞く)、酒とビンタと女が大好きそうな中田出身の野家先生、生徒指導でハイライトを勤め、「テストの点数もつと欲しい人前に来なさい」といつて妙に生徒にやさしかったN先生、体育祭でパソコンを使った集計で生徒を驚かせた吉野先生、生徒がルール違反すると百円罰金をとっていたセ

イゴ先生、「悪いけどずつと、奴隷だがんば」と言って生徒を恐らせたカンテル先生、そして、「甘ったれんな」とビンタされたことが心に残るタガトス先生。

タガトス先生と最後にあつたのは卒業式のこと、「がんばれよな」と握手を求められた。握つたてのひらは温かく、そして、力強かった。「おれは、おまえらと鍛え方が違うんだかな」と笑つていた先生が鬼籍に入られたとは今もって信じがたい。

こんなふうに、先生たちの寛大ななからいに見守られつつも、ろくでもない高校生活を送つた私は、今でも「何やっつてんだか」と先輩にお叱りを頂戴する。いまは、古高の「在宅学習」当時に戻つたかのように、全国各地の個人商店や消えゆく商店街を取材しては原稿書きに励んでいる。

PART 5

昭和45年卒

### 藤井 茂樹

古高を卒業して早26年余。四半世紀を

経過して、まさに人生は一炊の夢、底の浅い生活の中で瑣末な現実のみに足を奪

われ、空費した時の貴重さを思うとき、ともすれば記憶の彼方へと押しやられて行く、かつての母校教師のことを先輩、同輩をからめて書いてみたいと思う。

菅野照雄先生―綽名はカンテル。あ

たかも牛乳壺の底のような眼鏡をかけた彼は、不思議な人であった。第一に、当時流行病のようであった政治的党派の匂いを全く感じさせなかった。意外に驚かされたのは、その学識の豊かさ

もあることながら、その人間の高貴さである。ともすれば大したレベルでもない知識を振り回して自らのチョークや黒板拭きを投げる教師たちの中で唯一人菅野先生だけは一度もそのようなことはなかった。ただ整然とした漢文の韻律を朗々と踏むのみの講義に

学問の本質が滲み出ていたのです。先生の結婚の経緯を聞いた時「嫁さん？嫁さんは親がダンボール箱に入れて送ってきた。」言下に言い放つたには生意気盛りのこちらもビククリ、憎越ながら自宅に遊びに行かせてもらい、

朴訥としながらも手強そうな婦人の顔を見た時、世間の深さを教えられた気がした。見よがしに表面には出なかつたが生徒の人格、学力を見抜く目も一級で、大学など「山のあなたの空遠く・・・」と考えていた僕の合格ライン校を一発で指摘してくれたのも彼の人、古高にはもつたないほどの人間的幅を持つ先生。

高橋養先生―綽名は以前ドイツ語を

教えていたとかでドイツ。この人の前に立つと「自分たちではなくこの人のために古高があるのでは？」と思

われるほど古高生然とした人。ドイツの特長は良くも悪しくも、古き良き父性社会の長所である力強い優しさを

してくれたことばに彼の人生に対する希望と陰が入り交じっていたような気がする。私の記憶に間違いがなければある時期泣く子も黙る生徒部長(風紀部長)を任じていたのもこの人。パンカラ、質実剛健などと言って、およそ内実のともなわれない時代にも取り残された空虚な絵空事の象徴だった校風標語の裏側に横行する暴力や革命家気取りの

言動を弄しあらたな青春を迷う?のを是正するの役割。昭和30年代後半から40年代中頃までが革新運動の過渡な

成熟期とすれば、ドイツの生きた時代は先の見えない紛いもの政治的季節に目一杯両手を広げて、若い魂の何ものかを押し止めようとしたことではなかつたらうか?卒業後やはり彼の家を訪ねた時、「先生は何故僕らの同級生

Aを暴力事件とはいえ退学という厳罰に処したのですか?」息せき切つた僕に、決然として「君はまだAの問題を言うのか?彼はそれなりのことをしたのだ。彼は明らかに道をまちがえた。」と

気色ばんだのを忘れられない。彼の教職に対する使命感と人間の真実が合致し得たかどうかは、今でも分からないが、世界的なシニールの嵐の中で父性的秩序の信奉者だったような気がする。昨年同級会で会つた高養先生のと

りとのめない言葉にさすがに歳月の流れを感じたが、翻つて僕らの側に流れる一抱えほどの思いや相克が試されているのではないだろうか。

猪狩常雄先生―教科は名にしおう世界史、綽名は不明、現実としての世界史ではなくノリスクの世界史に浸り

きつているせい、ウエーバーの歴史観を語るのが大好きで、その実言葉の端々に権謀好きの修飾が目立つ不思議な世界観の持ち主であったように思う。特に、第一次世界大戦の前哨戦となる

三国同盟(ドイツ・オーストリア・イタリア)、三国協商(英・仏・露)の対立の図式を講義するとき、それが、当時は中央から切り離されていた大崎古川のミニチュアサイズに合っていてまさに、「時代を語る」が如く熱気につつまれるのが圧巻であった。すでに現実は全般を把握しようとする歴史学の時代ではなく、個々に細分化されて行く社会の法則性と分野分野における独立した理論を必要とする時期を迎え最早、第一次世界大戦時の限定された範囲の政治が国際政治の舞台で「懐かしき良き地政学」でしかなかった時期に、一個の人間のエゴイズムにこだわる側からのメッセージとしては、高校世界史「第一次大戦」は格好の手段であり手法であったかもしれない。マルクス経済学の絶対値が大道に躍りてた季節にウエーバーの歴史観を賞賛したことは、彼の「先生」の中に本能的な懐疑感があつたかもしれない。確かにその慧眼に驚くと共に、残念なのはウエーバーの力技のナシヨナリストが利用する歴史観ではなく「宗教的禁欲主義」が資本主義を成立させたという純粋な学術的成果が遂に語られずじまいに終わってしまったことである。因みにこのリスキなき権謀好きの先生は演劇部の顧問でもあり、就職担当でもあつた。

六戸章先生「教科は美術、綽名は戦後日活で一世を風靡した「コロトの錠」こと六戸錠をもじって「俺は六戸シヨウ」だというのが口癖。鮮明に覚えているのは、胸はずむ一学年の最初の授業のとき、この人を喰った挨拶以外は美術論とか美術史とかの講義等を一切しなかつたこと。「俺の知ったレベルは説明しても安易に解らず」を無言のうちに雄弁に語っていたこの人は唯一古高の中で芸術的アカデミズムを感じさせる

ふるさとに還るの記

終の住処・田舎暮らし 昭和二十八年卒 山田四郎

先生であつた。その感性は高校の先生と言うよりは大学の教師に相応しく、卓越していたのは自殺や自死という美化された一切の「死の概念」を持ち出さなかつたばかりか、毛ほども感じさせなかつたことである。たぶん本格的な芸術にどこかに触れたことのある先生は、思想やイデオロギーからくる人間の序列などというものは、頭から信じていないフシがあつた。したがって並の教師の中で超然とするのは当然で、余程のことでも驚かない心境の持ち主でもあつた。こちらが亀井勝一郎の「愛と無常について」を必死になつて読んでゐるのを見て「愛の無常についてか・・・、まさに愛は無常として深遠だよな」と呟き、何ともいえないその懐の

深さに、その後簡単に近づけなかつたものです。思春期最大のハードルとなる女性というものを何処かで本質的にとらえる経験したことのあるこの先生は「女で悩んで成長する」式の合理性を獲得するために陥つた人工的概念ではなく「男が必要とするものは女も必要とし、自然こそが最大の真理」とする云わずもがなのコモンセンスの持ち主であつたように思う。今では考えられないようなグループサウンドのもたらす感傷的街の時代にあつて人間の原型に忠実であつた。時節ホロ酔いで教壇に登場する気持ち良いほどの豪気さとは背中合わせに、案外「魔弾の射手」的カスターロフイーの愛好者だつたかもしれない。

今、季節は晩秋に入り、見わたす野や山は盛りをすぎたとはいえ、鮮やかな紅・黄葉がしたたるような明るさを見せて輝いています。さて、私は定年を機に四十年余にわたり住み慣れた東京・神奈川での生活に別れを告げて平成六年六月にふるさと宮城に転居しました。それは私が五十代に入つてから鮭が本能的にふるさとの川へ回帰するのにも似たうずくような望郷の想いが次第に強くなつてきたからです。

しよう。定年即濡れ落葉の生活だけは送りたいありません。今や人生八十年の時代。まだ後二十年も(しかも!)生きなければなりません。それならその最後の二十年間はせめて大事に、出来るだけ楽しく、明るく、健康で生きがいのある充実した人生を送りたいものです。当時の私の定年のイメージは「晴耕雨読」という日本人の典型的なライフスタイルへの憧れでした。多分に子供二人も自立しており、同郷出身の妻と二人だけの生活という身軽さもありました。

思えば会社人間としてあくせく働き続け、先も見えてきた頃で宮仕えにも疲れて、ひたすら大自然の中へ帰りたいという思いが募ってきたからだと思います。古人のいう「ふるさとへ廻る六部(巡礼)は気の弱り」もあつたかもしれませぬ。定年の受けとめ方はその人の価値観・生き方によつてさまざま

再出発の為の土地選びの条件はまず自然の豊かな環境があること、次にそこで自由に静かな暮らしができること、最後に買物・病院・交通など日常生活に利便性のある町です。帰郷四・五年前から住宅情報(東北版)・カントリーライフを定期購読して、いろいろな町や物

件を探し歩きました。仙台市内や近郊の大型団地など見て廻りましたが、その中で傑作なのは栗駒町にある昔の庄屋様のケヤキづくりの家(作業所込み百六十坪)・約千坪の敷地内には山林があり、庭の池にはこんこんと清水が湧きでる物件が千五百万円というのもありました。

その中から、やつと終の住処としてきめたのが地縁・血縁はうすいが、風光明媚な松島町にある現在の住まいです。ふるさとに住むよろこびは何といつても四季の自然との一体感が満喫できることです。春の香り高い山菜とり・秋のきのこ狩り・あけびや山菜などは裏山にいくらでもあります。夏には奥松島や野蒜海岸での釣りや海水浴・これから冬は生カキと地酒のおいしいシーズンです。

わが家の庭には鹿島台の春・秋の互市で求めたりんご・さくらんぼ・梨・柿・ぶどうなどの果樹が所狭しと植えられています。(もつとも喰べられるのは大分先です)。さて、新しい土地での生活は始まりましたが、いかに早く地域社会にとけこみ・より良い人間関係をつくれるかという不安がありました。しかし、今各地方自治体では「生涯学習」活動を熱心に行つております。その一端で公民館主催の多様な講座があり、さつそ六十の手習いでその中の「漢詩鑑賞」・「万葉集を楽しく読む講座」・「悪筆矯正なるかと」・「実用書道教室」のサークル活動に積極的に参加して多くの知人ができました。さらに今年には町内定年退職者達で「補習会」という勉強会をつくりました。

特筆すべきなのは、この松島町にもさすがが古高の同窓会があることです。会長の佐藤恒夫(昭和二十年卒)さん以下、会員は三十二名で楽しく懇親会を行つております。もちろん、在仙の

古高二八会の会合に参加することも多く、悪童の昔に返つて呑みあかしたりしています。このような人と人との出会い・交流を通じて新しい発見や感動があり、豊かな人間関係の輪を広げることができました。もつとも現状に何もかも満足ではなく、まだまだ「悠々自適」という心境ではありません。

ふるさとの町々も今、社会や時代のはげしい変化の中で戸惑い、見方によっては活気を失い、停滞している面もあります。私は自分を育ててくれたふるさとの風土と歴史に誇りと感謝を持ちながら、いつまでも夢を持ち続けて心豊かにこれからも生きてゆきたいと思つています。

設備管理・省エネ・品質システムなどのコンサルティングを行っております。お気軽にご相談ください。

佐藤 啓三 (S40年卒 中新田) 中小企業診断士・エネルギー管理士

(株) ベリタス・コンサルティング・グループ 〒221 横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノウェイブ 100-11F TEL 045-451-2491 FAX 045-451-2490 自宅 TEL 045-953-3858

# 支部便り

古高同窓会岩出山支部の近況

支部長 野村喜太郎

町の人口は約一万五千五百人、町内に在住する同窓生は三百数十人である。把握できる範囲の方々から年会費壹千円をいただき、運営費と百周年記念事業への寄付準備金とに当てて居ります。

町内中学校から古高へ進学するのは毎年二十名前後であり、入学時に岩出山支部名にて祝電を打ち入学の喜びと共に「古高」という意識を高めようとして居ります。

近年私立の進学コース、運動部からのスカウトが激しく、特待生と授業料免除等看板にして居り古川、仙台の私立高校へ進学する生徒が年々多くなっています。母校の校長先生始め教職員の方々も非常に心配され、各中学校へ呼びかけを行って居り、将来性のある生徒が多く古高へ進学する様少しづつ流れが変わればと期待致して居ります。

八年の総会は八月二十五日開催して居り、母校から高橋健三校長先生、同窓会事務局長鹿野次夫先生のご出席をいただき母校生徒の活躍状況、百周年記念事業の進捗等の報告をいただきました。又先輩の財法古川体育協会会長、中学三十五回卒の佐藤利作氏の「健康で老いるコツ、ヨーガ的体的運動」に就いて講話と実演をいただき会員に喜んでいただきました。

九年の母校同窓会総会には支部から多く出席しようとの声と共に百周年記念事業に向かって次第に盛り上っているのが感ぜられ心強く思っています。

## 在仙古高同窓会総会出席報告

佐藤 廣

平成8年12月7日(土)午後3時より第47回在仙古高同窓会総会及び伊藤衆議院議長と早坂宮城県公安委員長の就任祝賀会がパレス宮城野(上杉三三・一・NHK北隣り)にて行われました。在京古高同窓会からは、高橋副会長と佐藤事務局長代行の二名が出席しました。

当日の出席者は会員114名(中学57名、高校57名)と来賓10名で、総数は124名でした。まず、総会は菅原仁(24卒)副会長の司会により、会務報告・会計報告・役員改選と進められ、来賓祝辞は高橋健三(30卒)古高校長が述べられました。引き続き、公平有史(25卒)副会長の司会で伊藤宗一郎(16卒)衆議院議長就任と早坂啓(18卒)在仙古高同窓会長の宮城県公安委員長の就任についての祝賀会に入りました。

全員で校歌を斉唱した後、三浦良(24卒)副会長の祝辞があり、二人ともそれぞれ謝辞を述べられました。祝宴に入ってから、一段と賑やかになりました。野村母校同窓会会長の乾杯が始まり、祝辞が次々に述べられました。当会の高橋副会長にも突然の指名が廻って来て、驚いた様子でしたが無事立派に役目を果たされました。

5時過ぎには、片平和彦(26卒)副会長の締めをもって散会となりました。それぞれ、同期生同志で二次会にてかける人など三々五々散って行きました。私もしばらくぶりに、同期生と一緒に三件ほど廻っている内に時間が来てしまい、仙台の夜にうしろがみを引かれる思いをしながら、新幹線に飛び乗り、帰ってきたところです。

# 部会便り

在京古高オールカマー

ゴルフ大会開かる

既報、螢雪17号で参加募集をしたところ、二十人(三組の夫婦含む)の申し込みがあり十月十七日、東急セブンハインドレッドG・Cにおいて、晴天・無風の秋空の下、佐藤進(二六年卒)会長のあいさつに続いて、良く整備されたコースで熱戦が繰りひろげられました。速くて難しいグリーンにてこずりながらも日頃の腕前を存分に発揮し、好プレーの続出でした。

プレー終了後、クラブ内でのパーティーでは自己紹介や、今日のプレー談義に花が咲き、楽しい一日でした。成績は次のとおりです。

- 優勝 谷地森 清元(三一年卒)
- 優優勝 早坂 高明(二九年卒)
- 三位 木村 照子

次回は、さらに多くの参加者を期待しております。谷地森 税(二六年卒)



## 「東京古川会」設立総会開催さる

去る平成8年10月19日(土)に上野精養軒に於いて、関東在住の古川市出身者が一五〇名以上出席して、設立総会が行われ、在京古高同窓会関連として、副会長に選任された片平司朗さんの議事進行役、懇親会の司会役と大活躍の姿が印象的でした。

尚、その席で市当局から発表された事として、「情報発信の街」を掲げる古川市としては、平成9年4月に東京事務所開設を目標に入っており、市議会の承認を経て、本格的な活動に入る予定があります。東京事務所開設は宮城県では三番目になり、県北の中核都市を目指して、活用が期待されます。事務所は台東区上野駅近隣になるそうです。

## 野球部出身者へ

在京同窓会で野球部出身者の名簿作りをしています。関係ある方はぜひご連絡下さい。

電話〇三三三二二・二二七九  
昭34卒 穴戸 志智

## 古高三十卒の集い

平成八年、ネズミ年のフィナーレをかざろうと、ネズミ年生れの仲間十名が歌舞伎座正面に十二月十七日十七時三〇分集合し、平野武君のお世話で銀座昭和通りの謀所で楽しい一時を過ごしました。一月十九日の4高同窓会開催時に再会を約す。

昭30卒 渡辺 吉郎

## 旅行部からのお知らせ

古高創立100周年記念  
在京古高同窓会親睦の旅(予告編)

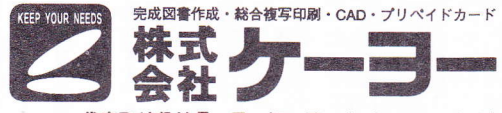
日	月日(曜)	都市名	交通機関	現地時間	日	程	【宿泊地】
1	平成9年 11月5日 (木)	東京 仙台	新幹線	10:30 11:00 13:07 夕刻		東京駅「銀の鈴」集合 東北新幹線にて仙台へ 市内にて、ビールと弁当の昼食 到着後、作並温泉へ 親睦会	宿泊先 【作並温泉】
2	11月6日 (金)			10:00		朝食はホテルにて 100周年創立記念母校訪問 終了後解散 各自自由	

費用概算：卒28,500-(参加者40名様以上)  
①新幹線片道 東京-仙台間切符代金を含みます。  
往復をご希望の方は別途になります。  
②31日の昼食及び親睦会の夕食代金  
③8月1日作並温泉より古高迄のバス代

在京古高同窓会旅行委員 小杉誠輝

ケーヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。  
文書 図面 写真 音声 映像を簡単にC-D-R-OMにします。

- 完成図書
- 文字情報入出力
- コピーサービス
- 総合印刷
- CAD入出力
- テレホンカード



代表取締役社長 早坂 清吉(昭・29年卒)

本社 〒103 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191  
横浜支店・千葉支店・臨海副都心営業所・八重洲営業所

# 乗り合い船（古高丸）の仮住まい

関西雪雲会 昭和二十七年卒 鈴木 孝

この度、在京古高同窓会会報「雪雲」を戴き、関西に長く居りますと古高時代のことがつい疎遠になり易いところ、懐かしく興味津々と読みました。中でも、第17号掲載の同期生春田紘輔氏作の「わが校の名物教師達」には在学当時のことが生々しく思い出され、ひととき印象深く心に残りました。それには及びませんが、小生なりに当時のことを書いてみる思いに駆られて、執筆致しました。内容が我流になることにはお許しを願います。

成田恒男先生：数学の中の幾何を習いました。今でも覚えていいるのは、問題が英語であったこととあります。従って、英語を勉強しながら、幾何を解いたわけです。この時に、直角三角形をright triangleということを知りました。

升谷長治先生：化学の先生であり、化学の初歩を習いました。化学を当初から志しておりましたので、先生の授業には特に興味深く聴講しました。その時、蛋白質の構成元素がCHONSから成ることを習いましたが、失礼ながら、その発音が先生の名前をズーゾー弁で発音するとよく似ていると思ひながら、これを暗記しました。又、高校卒業式の日の夕方頃、肩を叩いてノーベル賞を貰う迄頑張りとうと激励されたのも、この升谷先生でありました。

樋口光平先生：小生は大連から引き揚げてきて、昭和22年4月併設中学2年に編入しました。その頃の英語を担当しておられ、年齢の割にはハイカラで快活であり、英語の授業にはユーモアがありました。例えば、owe to という熟語を覚えさせるために、We owe our English to Mr. Higuchi. を板書して、これを暗記するように教育されました。英語の教育と自己宣伝とを上手にミックスしておいででした。

大山恒二先生：母と岩出山小学校が同期であった大山先生に日本史を習いました。帝国日本が破れて未だ2年しか経過しておらず、世相の貧困と混乱のなか教科書もない当時に、卑弥呼や古墳のことを習ったわけです。考古学が盛んな現在、卑弥呼の畿内説や九州説が論じられたり、又、大和路を散策して古墳に遭遇したりしますと、眼のギョロリとした独特の風貌をもった容姿をも連想しつつ、大山先生の授業のことを思い出します。

長田雅太郎校長：昭和24年4月併設中学から高校に進学した入学式の時、仙台一女から来られ、伊勢皇大神宮を人格化したならばかくやあらんと思われりるような様相をした当校長先生が、「入学を許可します」というような講話がありました。同校舎に3年間も過ごした我々には、新米の先生のこの講話が些か奇異に感じた印象が今に残っております。

鈴木敏郎先生：高校1年になり、初めて教科書らしい教科書が手に入るようになりまして。これまでは無かったのか、例え有ったとしてもそれはガリバン刷りのものでした。先生担当の国

語の教科書は、薄青色の表紙の本でありました。最初が島崎藤村の「新しき詩歌の時代は来たりぬ」という内容で、当時の我々にマッチしたものであり、ここで数多くの詩歌を習いました。今でも断片的ですが、憶えております。更に、万葉集、源氏物語の桐壺、等々です。近畿の化野、明石、名張等の地名を歩きますと、これらの地名に関連して先生に古文を習ったことを懐かしく思い出しております。

鈴木弘先生：祖父が町長をしておりました中新田出身の方でしたので、特別の親近感をもっておりました。高校1年の時の担任であり、その時進学についての調査があり、東北大学理学部と書いたことを記憶しております。先生から解析I等を教わりましたが、1年先の数学を勉強していた自分には授業が退屈であり、先生には申し訳ないことですが、授業中には他のことを内職していたような気がしております。

金原蔵義先生：大学の化学での先輩でもあり、当時は物理の授業を担当されておりました。化学者らしく実験を重んじておられ、よく実験を取り入れ、レポートの報告を求めておられました。その内容が良いと、duplicateという赤印が押印され返って来ます。この印が欲しさに真剣に実験をした記憶が残っております。

梁川逸郎先生：社会科の担当であり、時々番外の時事解説をよくなさいました。国際社会のこと、米ソ冷戦のことなどを、幕末の若志士宜しく熱弁を奮わされて解説されました。世相に疎い自分にとっては、その内容の斬新さと弁舌の爽やかさには全く度肝を抜かれる程のインプレッションなものであります。

文系に進まれた方々は、この講義に大分触発されたのではないのでしょうか。又、アイオン台風かキティ台風かで、先生の家の屋根が飛ばされたのを車窓から見た記憶が残っております。

増田良美先生：先生には国語を習いましたが、言葉の語源に堪能であったと記憶しております。例えば、さかなは、酒のことであり、酒のアテ（即ち、な）には海のうおが最も適しており、従って、酒のなが訛ってさかなとなり、それはうおのことを指すようになった、というような内容でした。そのような学問の分野もあるのかと、大変興味をもって拝聴しました。

高橋養先生：3年間ドイツ語を習いました。お陰で、大学では英独の他に仏語を学ぶことが出来ましたし、ドイツ語はその後文獻調査でよく読んだりしました。瀟洒な人であり、試験で一生懸命に訳しますと、その後模範解答が職員室前の廊下に貼られる。それは、「なじかわ知らねどころ詫びて」というように、著名人の訳を記しているものであります。夢多く多情多感なこの6年間の中学高校時代は、昭和27年3月1日の卒業式をもって終止符をうち、それ以後は、3月3日からの東北大学の受験へと移っていき、次の新時代へと又新しい舞台へと、人生の総ては大きく変わっていくのであります。

そして、以来40数年の歳月が経過し、何時の間にか紅顔可憐(かな)な青年から毛の薄くなった老壮年へと変身しているのに気付くのであります。

この時代を振り返ってみますと、一休禪師の弟子の新左が「世の中は(古高は)乗り合い船の仮住まい 善し悪しともに名所旧跡」と詠んでおります

が、この「世の中は」を「古高は」に置き換えると、この歌は将に我々の心境を現しております。この古高丸には、船長を始めとして立派な教育者としての船員が数多く乗って居り、たった6年の仮りの住まいの我々に良き遺伝子を植え付けよう、親身になりよく指導をされたと思っております。そして、その仮り住まいの者達は、その遺伝子をこの世に顕現すべく、その後の長い人生を費やして現在に至っている様に思われるのであります。このように考えてみますと、在学時代の様々なことは、色々の労苦があったにせよ、今になってみますと名所旧跡の様に感じられるのであります。さて、お世話になった諸先生の中には既に次の世に船出された方もおおいと聞いており、これらの方には心から冥福をお祈り申し上げます。又、お元気でおいでの先生方には益々ご健康にお過ごしなされ、今後も我々をご指導下さいますようお願い申し上げます。了

## 新事務局長就任の弁

青柳さん、片平さんと2代にわたって、身を無にするほど一生懸命やってくれました。還暦を迎えた私よりも、もっと気力のある若い方をお願いしたかったのですが、巡り合わせというか、適当な方が出るまでは「シヨウガネエナ」という心境でお引き受けした次第であります。

丁度、多藤さん、青柳さん、伊藤さんの昭和9年卒の皆さんが、同窓会を再興された頃からお手伝いをさせて頂いて来ましたので、北海道にいた6年間(平成8年5月に帰った)のブランクはありますが、各委員会のバックアップと会員皆さんのご協力を得てやって行きたいと存じます。宜しくお願ひ致します。(昭29卒 佐藤 廣)